

メーカーの動向

平成 24 年度
第 4 回大阪府 LED 道路照明
技術評価審査会
資料 3

認定メーカーへのヒアリング結果

技術評価制度へのニーズ

- ほとんどのメーカーが継続を希望。

認定製品の調達見通しについて

- 9 社とも H23、H24 年度認定製品の生産打ち切る予定は現時点ではない。
しかし、以下の要因から、いつまで作れるかわからない。
 - 販売量の低迷
 - 新モデルの登場
 - 部品（素子、電源装置など）の製造打ち切り
 - 筐体を作るための金型（1 基数千万円と非常に高価）の劣化
- 生産を打ち切った場合、概ね 5 年程度は部品を保管。

モデルチェンジの状況について

- H24 年度認定製品以後、
 - モデルチェンジした新製品があるのは 1 社。
 - モデルチェンジ予定は 1 社。
 - 残り 7 社は、現時点で予定はないが、
競争力を高めるためにモデルチェンジする意欲を持っている企業も一部存在。
- 以下を契機に、設計を見直すことで製品競争力の向上（製造コスト削減や省電力化、ユーザー要望の反映）が見込まれる場合、モデルチェンジを判断。
 - 高性能な部品（特に素子）の登場
 - 金型の更新タイミング

マイナーチェンジについて

- （本技術評価制度では、メーカーではなく、特定の型番の製品を認定しているが、）
外観上変わらない場合の型番変更について、一般的な定めは特になく、各メーカーが独自に判断。
- 一方、素子の性能は日々進歩していることから、H23 と H24 認定製品で筐体や素子の数や配置、配光制御が全く同じで、違いは素子の型番と電源装置のみ、というメーカーは数社あった。この場合、全てのメーカーは型番を変えている。同様のケースは今後も頻繁に登場する可能性。

技術評価制度への潜在的新規参入ニーズについて

- これまでは、応募対象企業は日本国内に本店登記を有する全ての企業に限定。
H24 年度は H23 とほぼ同等の技術条件で、応募企業の顔ぶれはほぼ同じ。
- 府認定製品を活用する自治体の増加が今後見込まれることから、
新規参入意欲が高まる可能性。

- 技術評価は従来どおり毎年度行うことが望ましい。
- もし行えない場合は、マイナーチェンジの対応を検討する必要。